

平成18年 7月 2日

キャリアモデル学習A
受講者各位へ

共生システム理工学類
助教授 樋口 良之

平成18年 6月30日実施の川久保洋先生のご講義の要約

1. 歩々是道場

1・1 今日この日を大切にしてください。

(太閤秀吉を事例にして) その時々求められていること、しなければいけないことを果たすことが重要です。私たちはとにかく結果を求めることばかりにあせり、将来の成功を夢みて、今日一日の務めを怠りがちです。高い理想、輝く希望につい胸を膨らませると、現実から遊離してしまい、今、この現実がうまくいかなくなってしまいます。将来の希望、目標も大切ですが、今も大切にしなければいけません。

1・2 夢を持ちましょう

(プロ野球選手の鈴木一郎さんを事例にして、夢のために目標を持つことの大切さを説かれました)

1・3 専門馬鹿になるな

専門を活かすためにも、常識を身につけておくことが大切です。

2. メモをとる習慣を身に付ける

2・1 記憶は過信できない

こまかな記憶は一日で半分忘れ、一週間もすれば97%忘れると言われます。この残った記憶3%で何を覚えるかが、「できる人」と「できない人」との境目です。この3%は、どこにメモをしたかを覚えておけば、関連する多くの情報を思い出すことができます。これにより、記憶を失ってしまう恐怖が遠ざかり、緊張感も解かれ、ゆとりが生まれます。どんどん書く、メモをとるという何気ないことを、実践しましょう。

2・2 出来る人になりましょう

知っている、知識があるだけでは、それができるという能力へつながりません。できるようになるためには、実力を身につけるためには、経験や訓練が必

要です。これまで獲得した知識と能力を用いて演練することで、実力が身につきます。

2. 3 どんなことにも学びはある。

(ある上司と部下の会話の事例)

上司：「君は、アンマができるか」

部下：「いや、できません」

上司：「お父さんやお母さんの肩をもんであげることはないのかね」

部下：「はあ、あまりしたことありません」

上司：「それでは君は、あまり出世できんぞ」

その青年は、アンマと出世とどんな関係があるのかと、げげんな表情です。そこで私は笑いながら、次のような話をしたのです。

上司：「例えば、君が、課長と一緒に夜遅くまで残業をしたとする。そうすると、君は若いから元気でも、年輩の課長には、疲れが感じられることもあるだろう。そんな時に、『課長、ひとつ肩でももみましょうか』と言えるだろうか」

上司：「会社は仕事の場のだから、そんなこと言う必要もないといえば確かにその通り。しかし、もし君がそういう一言を言ってあげられたら、それは、どれだけ課長の慰めになるのでしょうか。実際のところ、『じゃあ、もんでくれ』という上司はそう滅多にいないだろう。たいていは、『いや、結構。ありがとう』と言うに違いない。しかし、その一言で、課長の心には、アンマをしてもらった以上の喜びが生まれる。そして課長の口からは、『遅くまで引きとめてすまん。デートがあったんと違うか』といったなごやかな言葉や、双方が思いやる環境も出てくるだろう」

上司：「ぼくは、そういう心のかよい合いの中に、仕事が捗り、ものを生み出す原動力があると思う。だから、君にも、そういう思いやりが、上司に対しては勿論、周囲の人達に対して自然にできる人になってもらいたいし、そうやってこそ君の仕事の成果も大いに高まるのではないかな」

3. 3つに纏める

大切なことを伝えるときには、事実を、ありのままにすべて伝えると、本質が伝わらないことも多い。そこで、3つに分類したり、3つくらい的大事な部分だけを伝える努力をしよう。そして、その3つでは、大雑把すぎるときには、3つに分類した一つの大分類を、さらに3つに分類した中分類で詳細を解説す

るといいだろう。

このようなことをするためには、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の中に出てくる整理（不必要なものを捨てる）と整頓（残ったものを分類してまとめておく）が参考になる。また、それを人に伝えるときに、ハウレンソウ（報告、連絡、相談）のどの分類で、適格に、必要に応じて、適宜行われているかを自分でチェックしておくことがよいだろう。

4. ストレスを克服する

ストレスを克服するために、6つの袋を大切にしよう。

- | | |
|---------|------------------------|
| (1) 胃袋 | (4) 忍耐袋 |
| (2) お袋 | (5) 知恵袋 |
| (3) 給料袋 | (6) 手袋（職業、技術、技能、専門的知識） |

5. 64%理論

100%知識があり、それを他人へ伝えうるのはmax 80%である。一方で、それを伝えられる側が理解できるのは、max 80%である。この結果、実際に知識が伝わるのは、努力をしても $0.8 \times 0.8 = 0.64$ （64%）である。努力をしなかったり、問いかけ（樋を掛け）をしなければ、知識や思いは、もっと伝わらないだろう。努力が必要である。

6. 本質をつかめ

（あるトップと部下の会話の事例）

トップが外出先の仕事を終えて夜10時に到着した。まだ、仕事をするようだ。

トップ：「腹がへっているので、寿司でも取ってくれないか」

部下：「あいにく寿司屋が閉店してしまい、申し訳ないが注文できず、寿司はありません」

トップは部下を叱りつけた。部下に対して、理不尽な仕打ちと思いますよね。しかし、視点を変えてみると、次のような考察もできます。

夜遅くまでトップは仕事をし、夕食をとっておらず、お腹がすいているのですね。部下から、

「残念ながら、寿司屋はもう閉店でした。これでお腹を満たしていただけないでしょうか」

という提案があったらどうでしょうか？先の回答では、お腹がすいている状況

は解決されませんが、この回答では、お腹は満たされます。

「なぜ？そのような状況なのか？何が求められているのか？本質はどこにあるのか？」といったことを、TPOを意識し、感性、認知力を活用して、物事、事象の変化を的確に捉える能力が、養われていない部下に気づきを与えたことの表現が「叱り」という形になって現れたとも考えられないだろうか。

7. 時間の価値

時はその使い方によって金にも鉛にもなる（プレヴォ）。時間は皆が等しく持っている何よりも貴重な宝物です。皆が等しく持ってるから、その貴重さが際立ちません。90分の授業を、ぼっとしても90分、しっかりと聴いても90分です。どうせ過ごすなら、充実した90分にしようじゃありませんか。

最後に、

自分が理想とする伴侶を追い求めるよりも、理想の人が現れたら、その人が結婚したくなるような「自分」とはどんなものかを考えましょう。